

芸術科教育課程・カリキュラム再編のための調査研究
第二報

筑波大学附属駒場中・高等学校 技術・芸術科
市川道和・遠藤正之・土井宏之

芸術科教育課程・カリキュラム再編のための調査研究 第二報

筑波大学附属駒場中・高等学校 技術・芸術科
市川道和・遠藤正之・土井宏之

本調査研究は、生徒の意識調査を行い、その回答分析を踏まえ、芸術科カリキュラムの再編と来るべき新教育課程へ対応していく目的で始めた。昨年度から本年度にかけて本校の新教育課程が議論され決定されていく過程で、調査の分析を念頭に芸術科としての意見を述べてきた。第一報では選択調査に関する設問のみに止めたが、今回の第二報では芸術科目に対する生徒の意識・意向についての分析も行った。この部分では予想外の回答結果もあり、今後の芸術科カリキュラム再編にも反映させていく所存である。

キーワード：生徒の意識 芸術科カリキュラム 新教育課程

1. はじめに

本調査研究は、今年で3年目になる。昨年度は、アンケート調査は行ったが報告までにはいたらなかった。したがって報告は第二報となる。
昨年度は、本校では既に間近に迫った新学習指導要領へ対応した新教育課程への動きが活発化しており、そこに向けて、アンケートに見る生徒の回答の分析を新教育課程はどう反映させていくかに力を注いだ。
本校の芸術科に於いては、音楽・美術・工芸・書道の4つの教科を設けて、高1・高2の各学年共に、4クラス160余名ずつの生徒に、選択必修で同一科目を2年間連続で履修させている。1科目の受講人数は、概ね1クラス分の人数を基本として調整されることになるが、教科の特性や教科教室の受け入れ可能数を考慮して、音楽55・美術45・工芸35・書道35というおおよその上限を設けている。高校入学前に選択希望の第1、第2を本人に申告させ、担当教師により人数調整を行っている。総ての生徒の第1希望が尊重されるのが理想だが、当然の事ながら不可能である。

近年第2希望に振り分けざるを得ない生徒が増えてきて、いずれ振り分けが困難になることも予想される。このような現状を踏まえ、高校1年生に対して(初年度のみ高校2年生も)アンケート調査を実施した。選択希望時の希望の根拠・理由等を調査分析し、間近に迫る新学習指導要領にも対応した、高校芸術科の教育課程・カリキュラム再編成の手がかりとしようと言うものである。

2. アンケート調査について

高等学校の1年生(160余名)を対象に、第1報と同じ設問でアンケート調査を行った。調査項目の設問1から設問12までは、主に入学前に実施する選択希望調査に関するものである。設問13から設問15までは授業評価とも絡んだ内容。設問16から設問20は、近い将来の教育課程再編も念頭に、生徒の意識・意向を探ろうとするものである。

<高等学校芸術科科目選択に関するアンケート調査>

選択した番号を○でかこんでください(複数考えられる場合は、最も比重の高い項目を選ぶこと)。文章で筆記の個所は空欄に書いてください。

1. 連絡進学者ですか、高校時入学者ですか。
①連絡進学者 ②高校時入学者

2. 現在履修している科目は何ですか。

- ①音楽
- ②美術
- ③工芸
- ④書道

3. 中学3年時の科目選択調査のときに第1希望とした科目は何ですか。(裏面に資料)

- ①音楽
- ②美術
- ③工芸
- ④書道

4. 中学三年時の科目選択希望調査のときに第2希望とした科目はなんですか。(裏面に資料)

- ①音楽
- ②美術
- ③工芸
- ④書道

5. 科目を選択するにあたり、参考としたものは何ですか。

- ①入学者説明会のときに配られた、各科目的資料
- ②中学の時の各科目的学習
- ③その他

6. 入学者説明会のときに配られた、各科目的授業内容の資料によって、選択科目決定に充分な情報が得られましたか。

- ①充分に得られた
- ②かなり得られた
- ③あまり得られなかった
- ④ほとんど得られなかった

7. 入学説明会の資料項目の中で第1希望科目選択の根拠となった項目は何ですか。

音楽	美術	工芸	書道
①声楽	①絵画	①工芸史	①古典の鑑賞
②器楽	②美術史	②木工芸	②創作
③音楽史	③彫刻	③ペーパークラフト	③書道史
④ソルフェージュ	④デザイン	④陶芸	④拓本
⑤理論		⑤コンピュータ・グラフィックス	⑤篆刻
		⑥日本民藝館見学	⑥表装
			⑦写経

8. 入学説明会の資料項目の中で第2希望選択の根拠となった項目は何ですか。

音楽	美術	工芸	書道
①声楽	①絵画	①工芸史	①古典の鑑賞
②器楽	②美術史	②木工芸	②創作
③音楽史	③彫刻	③ペーパークラフト	③書道史
④ソルフェージュ	④デザイン	④陶芸	④拓本
⑤理論		⑤コンピュータ・グラフィックス	⑤篆刻
		⑥日本民藝館見学	⑥表装
			⑦写経

9. 何を基準にして、選択科目を決定しましたか。

- ①興味、関心があるから
- ②得意科目だから
- ③不得意科目だから
- ④担当教師
- ⑤友人が選択するから
- ⑥その他

10. 誰の意見を参考にして選択科目を決定しましたか。

- ①自分一人で
- ②教師に相談して
- ③親・兄弟に相談して

④友人に相談して

⑤その他

1 1. 選択科目の決定に際して、迷いはありましたか。

- ①第1・2希望とも迷わなかった
- ②第2希望は迷った
- ③第1・2希望とも迷った

1 2. 選択決定に際しては、各科目に受け入れ可能人数の上限があるため、第1希望でそれを超える科目がある場合、機械的に第2希望により人数制限をしていますが、この方法に何か不満はありますか。

- ①不満はない
- ②多少不満はあるが仕方ないと思う
- ③大いに不満である

<選択決定方法に関して、要望があれば書いてください>

1 3. 現在履修している科目のカリキュラム（設問7の項目）および授業内容について、

- ①予想通りで満足している
- ②予想通りだが不満である
- ③予想と違うが満足している
- ④予想と違い不満である

<現在履修している科目のカリキュラム及び授業内容について要望があれば書いてください>

1 4. 現在履修している科目に対して主体的に取り組んでいますか

- ①他教科の授業以上に
- ②他教科の授業と同程度に
- ③他教科の授業以下

1 5. 履修科目に対する関心・意欲は、選択前（入学前）と比較して変化しましたか。

- ①高まった
- ②あまり変わらない
- ③低下した

1 6. 履修の形態について、現在、週に2時間ですが、

- ①週に2時間で良い
- ②週に2時間以上あったほうが良い
- ③週に1時間で良い

1 7. 履修の形態について、現在、高1・高2で選択必修ですが、

- ①現行どおりで良い
- ②高1の1年間だけで良い
- ③高3でも履修したい

1 8. 履修の形態について、現在、高1・高2で同じ科目を履修しますが、

- ①現行どおりで良い
- ②高1・高2でそれぞれ違う科目を履修したい

1 9. 履修の形態について、仮に、高2で芸術と他の教科との選択必修であった場合どうしますか。

- ①芸術の科目を選択する
- ②他教科の科目を選択する
- ③組み合わせとなる相手教科によるので、どちらとも言えない

2 0. 履修の形態について、仮に、高2で芸術が自由選択であった場合どうしますか。

- ①芸術を履修する
- ②芸術を履修しない

<芸術という教科をどう捉えていますか、また、何を期待しますか、自由に書いてください>

3. 調査結果データ

2学年（51期生、50期生）を比較検討する意味で、全項目2年間の回答を一覧表にした。なお、表の

各項目の数字は、上段が51期生で下段が50期生の回答である。グラフはクロス集計も含め51期生の回答からのみである。

1999/2000芸術科教育課程アンケート

	Q1	Q2	Q3	Q4	Q5	Q6	Q7	Q8	Q9	Q10	Q11	Q12	Q13	Q14	Q15	Q16	Q17	Q18	Q19	Q20
①	118 114	51 50	38 35	32 38	26 21	11 13	43 35	28 18	108 112	123 122	83 65	78 75	85 70	48 29	33 28	105 95	104 100	101 88	52 33	112 86
②	41 41	43 39	37 46	47 47	62 84	32 32	50 34	46 42	17 12	2 0	42 53	71 68	25 22	93 99	113 102	43 35	30 38	57 65	24 33	46 68
③		32 35	53 54	51 52	70 50	69 60	11 16	20 30	2 4	12 14	34 37	12 12	32 31	18 26	13 24	11 24	25 15		83 88	
④		33 31	31 18	29 18		45 37	22 28	21 31	5 5	14 18			17 29							
⑤							31 27	33 19	5 4	7 2										
⑥							0 0	4 2	21 19											
⑦							2 3	7 1												

4. 調査結果の報告

第一報では、上記調査項目のうち設問1から12までに限って、つまり、選択希望調査に関する設問についての調査結果の分析のみにとどめた。2報目となる本年は、2年分の回答結果から13番以降の設問の分析も行い、授業評価や芸術科目に対する生徒の意識・意向を探った。その中で履修科目による傾向や学年による傾向、また連絡進学者と高校入学者の傾向についても、その差について若干の分析をおこなった。そしてこの調査結果を踏まえ、本校の新教育課程再編に芸術科としてどのように対応したかにも言及した。

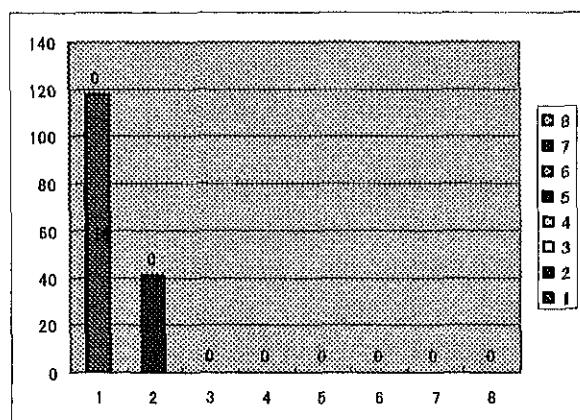
第二報の分析の進め方としては、設問の各々を単独で分析し、随時、特徴的な差や傾向が出てきそうな項目についてはクロス集計を行い、その結果分析をした。尚、学年間については、あまり大きな差は出ていないが、その中で、やや差の出方が大きい設問について言及する。各々の期の在席数は50期が163名、51期が164名だが、欠席者や未記入者の為、調査対象者は夫々155名、159名となった。

(Q1) 連絡進学者と高校入学者の比率は3対1である。

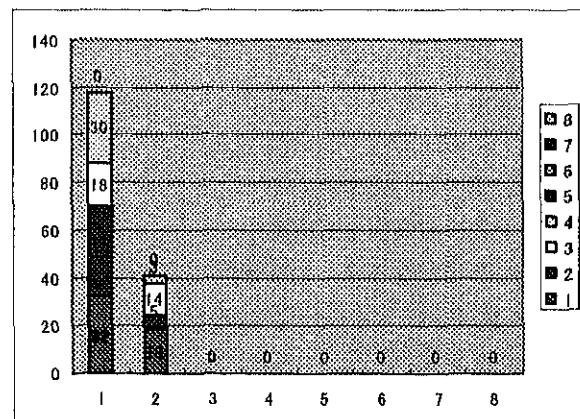
(Q2) 各科目の履修人数は、音楽51、美術43、工芸32、書道33である。この人数は、先に述べた各教科の受け入れ上限の人数を考慮して第2希望まで

で設定したものであり、各学年毎にほとんど固定に近い人数となる。

Q 1

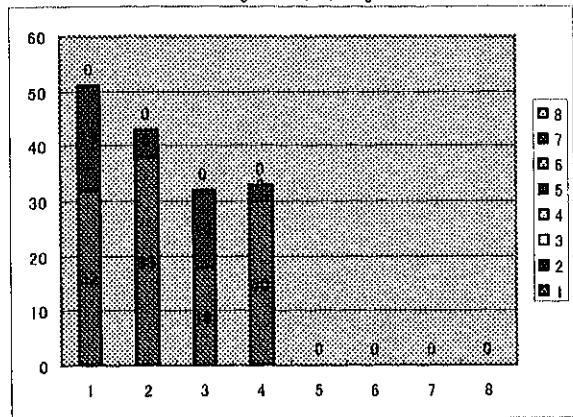


Q 2



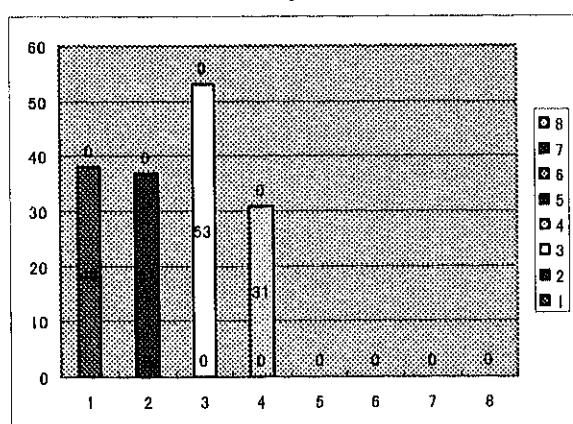
科目ごとの連絡進学者と高校入学者の割合を(Q 1)と(Q 2)のクロス集計で見ると、音楽が3対2(ほぼ半々)、美術が8対1(7対1)、工芸が6対4(2対1)、書道が10対1(15対1)となっており、全体の比率は3対1であるので、教科によりかなり偏りがあるのがわかる。()内は50期生。以下も同様特に美術、書道に50期生、51期生共に連絡進学者が多くなっている。

ヨコQ 2 タテQ 1



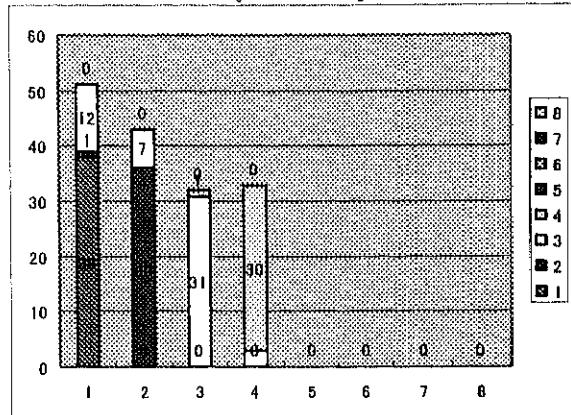
(Q 3) 選択希望調査時の第1希望の人数は、ここ数年工芸が50数名代と多く、音楽、美術がほぼ同数で40名前後、書道の変動が大きくなっている。特に書道の50期生は18名と少ないが、51期生は31名と増えている。

Q 3



(Q 2)と(Q 3)をクロス集計してみると、工芸の履修者が全員(全員)、書道の履修者はほぼ全員(7割)、音楽の履修者は7割(7割)、美術の履修者は8割5分(全員)が第1希望の科目を履修しているが、両期とも30名前後、2割近くの生徒が第2希望の科目を履修している。

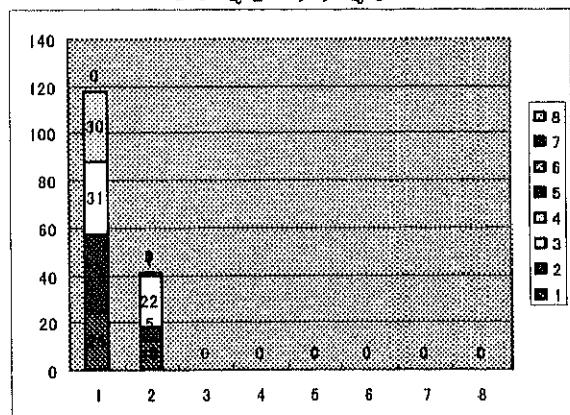
ヨコQ 2 タテQ 3



(Q 1)と(Q 3)とのクロス集計では、50期生と51期生とも連絡進学者と高校入学者の第1希望科目に違いがあるのがわかる。連絡進学者では、各科目同数に近い希望者数だが、高校入学者では工芸22(19)、音楽13(14)と第1希望者がおおくいるが、美術を希望した生徒が6名(6名)と少なく、書道に至っては両期とも1人も居なかった。

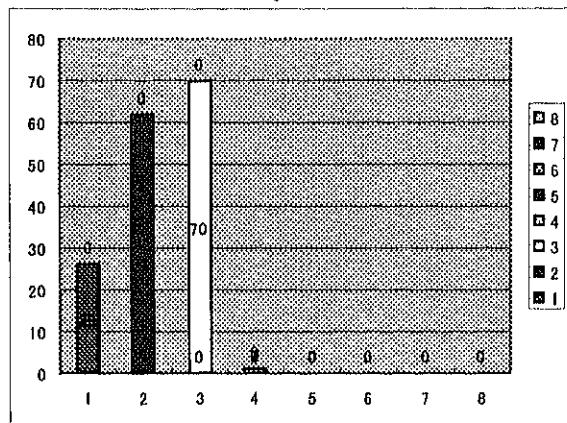
これは美術に関しては、中学に於ける美術の内容が高校に於ける美術と工芸の範疇であり、美術を志向する生徒が、美術と工芸に分かれたという見方が出来る。連絡進学者は同一校舎・教師で学ぶ為、美術と工芸の内容がかなり解っていて選択しているものと考えられる。又、書道希望者の少なさは、中学の書写の扱いとも関係が有るのかもしれない。連絡進学者同士では、50期生は上限のほぼ半数と少なく、51期生はほぼ上限に近い。又、美術では逆の傾向が見られる。

ヨコQ 1 タテQ 3



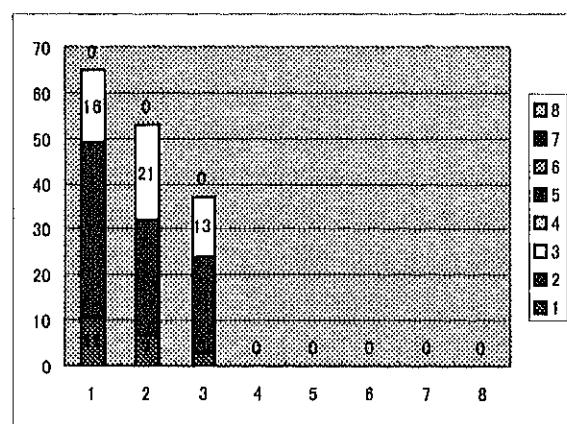
(Q 5) 科目選択の参考としたものは、その他が多く4割5分近く居るが、各科目からの資料による生徒は非常に少なく2割(1割)にも満たない。

Q 5



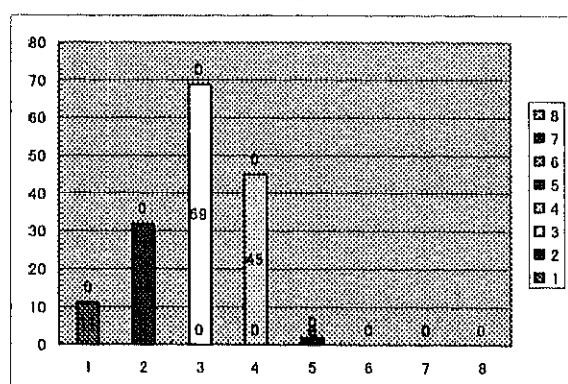
(Q 1) と (Q 5) のクロス集計によれば、中学時の学習内容を参考としている生徒は、連絡進学者は4割強（7割）居るが、高校入学者は3割強（3割）である。このことは当然とも言えるが、期による違いも見える。

ヨコQ 1 タテQ 5



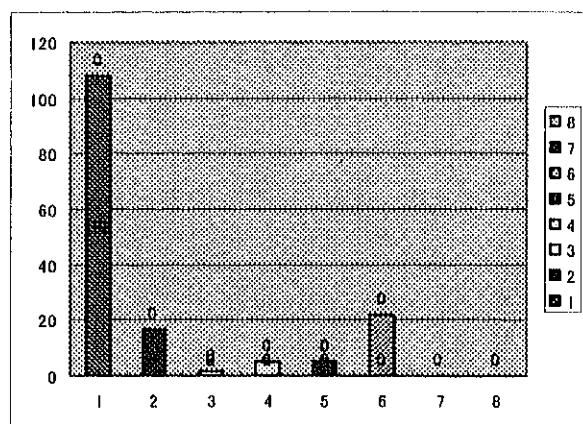
(Q 6) 入学説明会時の配布資料により情報を得られた生徒は非常に少なく、2割5分程度しか居ない。7割以上の生徒が配布資料からは情報を得られていないことになる。

Q 6



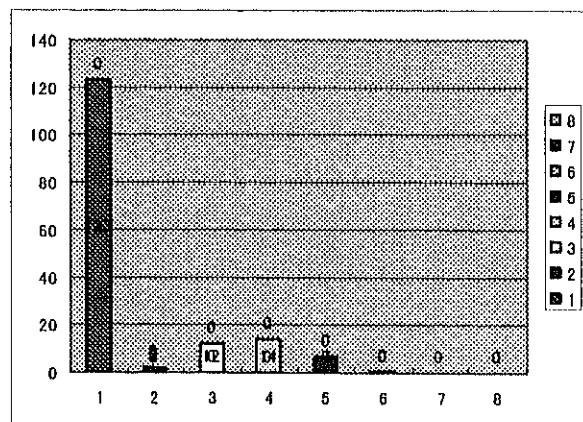
(Q 9) 選択科目決定の基準は、興味・関心によるとした生徒が圧倒的に多く7割近く、得意科目だからが1割、担当教師や友人が選択するからと言う生徒は非常に少ない。

Q 9



(Q 10) 選択決定に際しては、自分の意志で決めた生徒が圧倒的に多く7割5分以上（8割）で、次いで親兄弟や友人に相談して決める生徒が1割5分くらい居る。

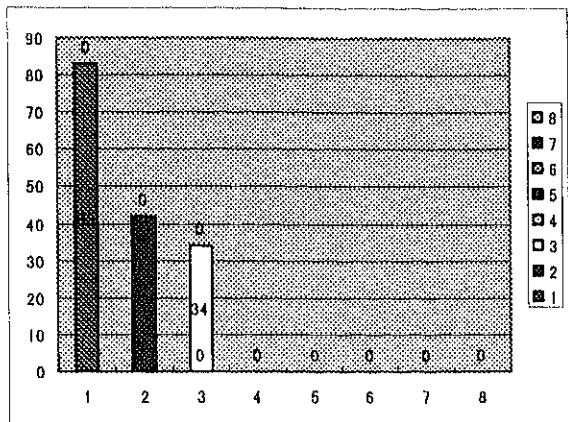
Q 10



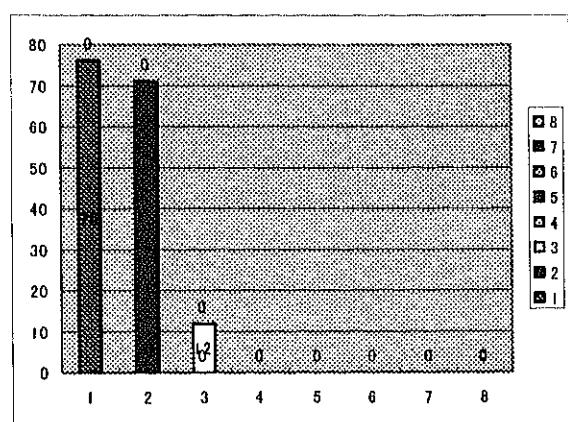
(Q 11) 選択決定にあたり、迷わなかつた生徒と何らか迷つた生徒とが半々。迷う生徒が意外に多いのは (Q 6) とも関連して、情報不足による部分もかなりあるものと思われる。

(Q 12) 科目決定の人数調整に関しては特に不満は多くはない。両期とも9割以上の生徒がシステムとして仕方がないものとして考えている様である。50期生もそうであるが51期生も第2希望を履修している生徒が比較的多い音楽・美術（音楽・書道）にシステムに不満を持つ生徒がやや多くなっている。

Q 1 1



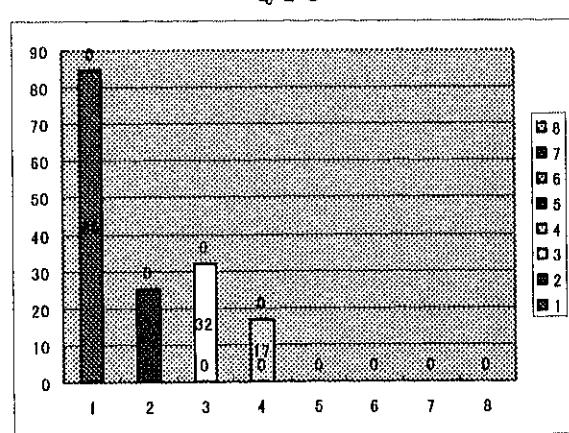
Q 1 2



(Q 1 3) から (Q 1 5) までは授業評価と絡んだ内容となる。

(Q 1 3) 授業内容については、満足していると答えた生徒が7割5分いる。

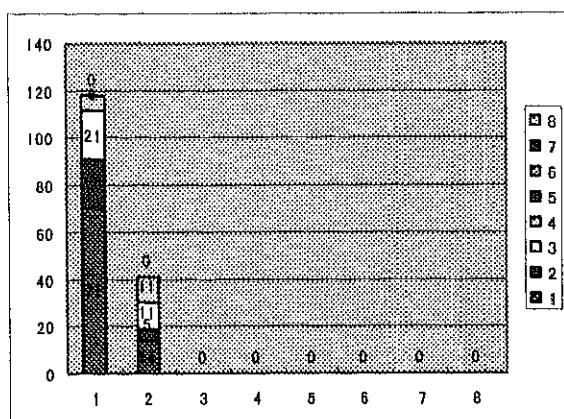
Q 1 3



(Q 1) と (Q 1 3) をクロス集計してみると、連絡進学者では満足していると答えた生徒が8割(7割5分)近いが、高校入学者では2つの期とも5割強である。これは、連絡進学者は、中学時の学習がら本校

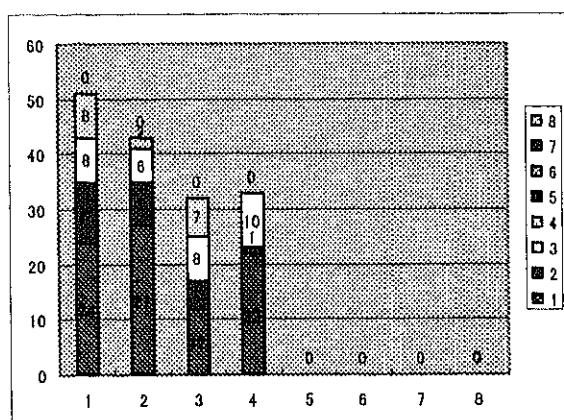
の芸術科の授業内容や傾向をある程度把握して選択している為ではないかと考えられる。それに対して高校入学者は、情報不足からくる不満足度が高いのではないかと考えられる。

ヨコQ 1 タテQ 1 3



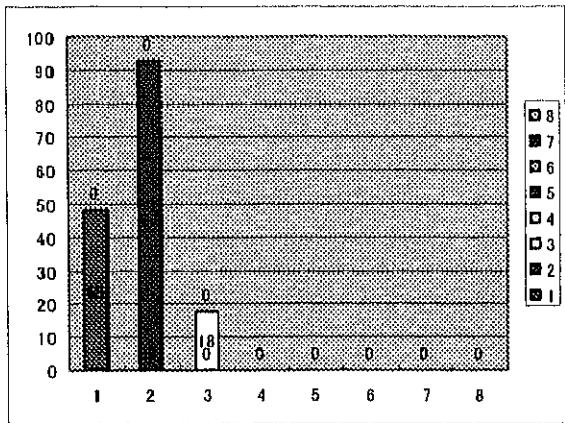
(Q 2) と (Q 1 3) とのクロス集計で、第2希望者の多くいる科目と少ない科目の満足度の差を見てみると、そのことはほとんど関係ないようである。例えば書道選択者で見ると、50期は半数近くが第2希望履修者であるのに対して51期は1割弱が第2希望履修者だが、満足度は2つの期とも100%に近いと言った具合である。音楽や美術にはやや第2希望履修者によると思われる不満の傾向が見えるが、満足度は、期による違いや教科の特性によるものが大きい様である。

ヨコQ 2 タテQ 1 3



(Q 1 4) 履修科目に対する取り組みの意欲は、他教科の授業以上と答えた生徒が3割近くいるのに対して、他教科の授業以下と答えた生徒は1割であった。50期は、連絡進学者・高校入学者双方ともに2割弱で、期による違いが見える。

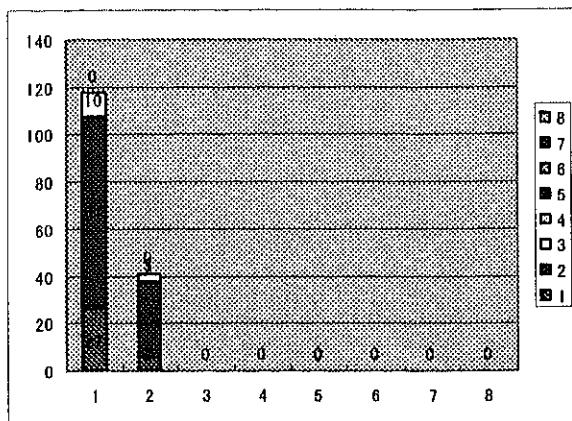
Q 1 4



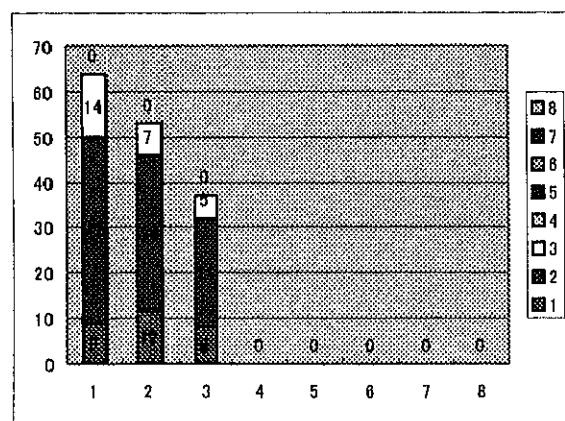
(Q 1) と (Q 14) のクロス集計では、連絡進学者が3割強（1割5分）なのに対して高校入学者は2割（1割5分）で、当然ではあるが (Q 13) の回答と傾向が一致している。ただし50期生の場合は連絡進学者と高校入学者で割合が変わっていないのは、期による違いと考えたら良いのだろうか。

(Q 1) と (Q 15) のクロス集計では、連絡進学者は2つの期で2割強が意欲が高まつたと答えているが、高校入学者では50期生は1割5分、51期生では1割5弱の生徒が高まつたと答えてている。又、低下したと答えた生徒は、50期生が3割、51期生が1割弱となっている。この設問に関しては、高校入学者にも期による大きな差が出てくることが解る。

ヨコQ 1 タテQ 1 5

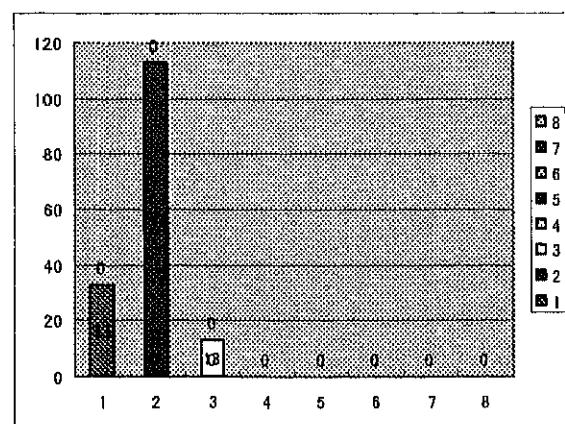


ヨコQ 1 タテQ 1 4



(Q 15) 2つの期とも2割近くの生徒が意欲が高まつたと答えている。低下したと答えた生徒は1割弱（1割5分）。

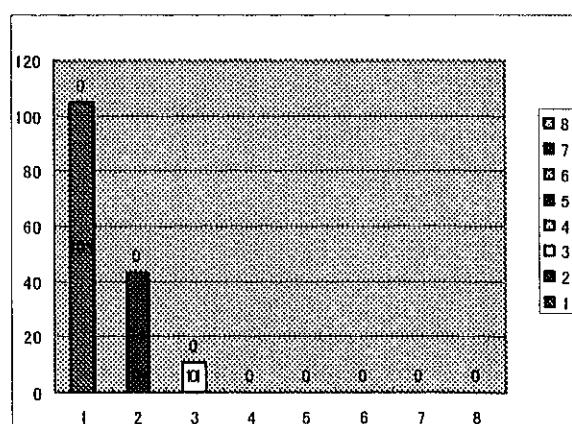
Q 1 5



(Q 16) 以下は、新教育課程を念頭に置いた設問である。履修の形態については、「はじめに」でも触れた様に、同一科目を2年間2単位ずつ選択必修で履修させている。

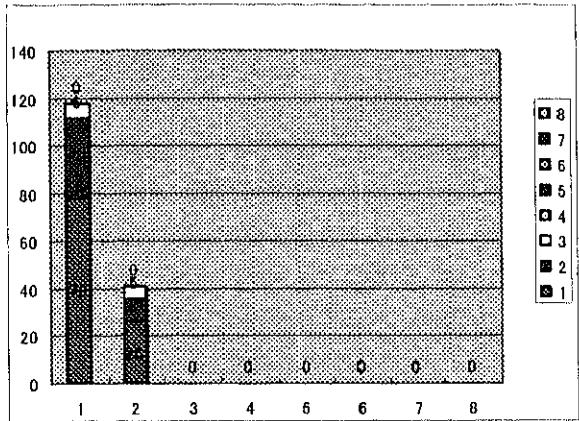
(Q 16) 現行通りが多いが、週2時間以上有ったほうが良いと言う回答も3割近く（2割強）あった。

Q 1 6



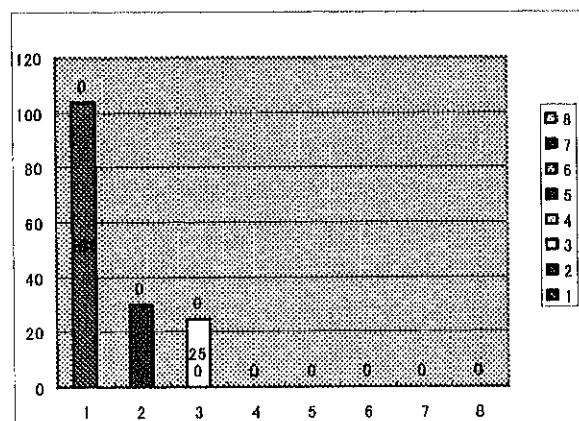
(Q 1) と (Q 16) のクロス集計を見ると、若干ではあるが連絡進学者の意欲が高い様に見える。

ヨコQ 1 タテQ 1 6



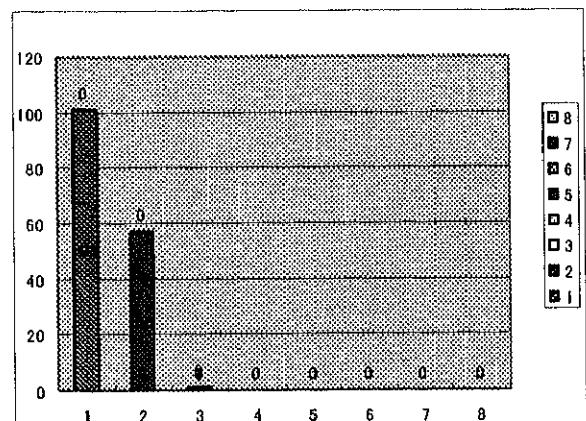
(Q 1 7) 同一科目を 2 年間履修することに関しては、現行通りが多いが、2つの期とも 2 割近くの生徒が 1 年間だけで良いと答えた。一方 3 年でも履修したいと答えた生徒も 1 割 5 分強（1 割）程度居た。期による差はあまり無いが、高 3 でも履修したいと答えた生徒は 5 1 期の生徒の方が 10 名ほど多かった。

Q 1 7



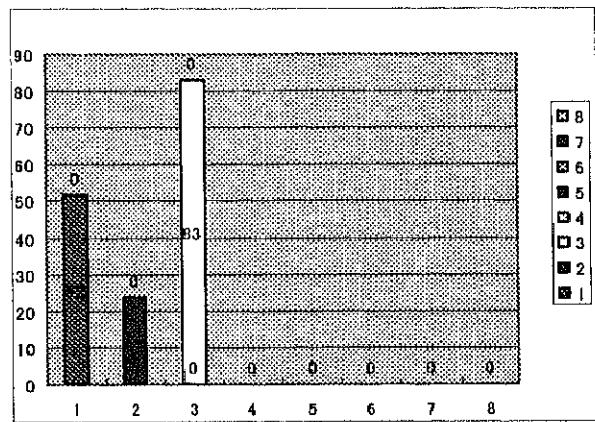
(Q 1 8) 高 1、高 2 で連続して同一科目を履修することについては現行通りが多いが、3 割 5 分（4 割強）の生徒が違う科目を履修したいと回答している。

Q 1 8



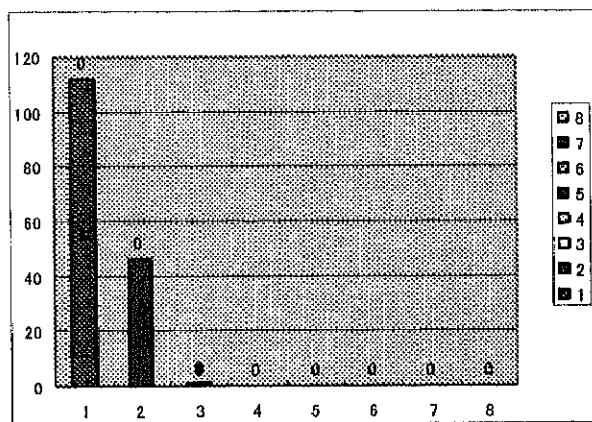
(Q 1 9) 高 2 での芸術教科と他教科との選択必修については、相手教科との組み合わせによると言う回答が多いが、芸術の科目を選択すると答えた生徒が 3 割強（2 割強）いるのに対して、他教科を選択すると答えた生徒は 1 割 5 分（2 割強）と少ない。

Q 1 9



(Q 2 0) 高 2 で教科が自由選択になった場合、芸術を履修すると答えた生徒が 7 割（5 割 5 分）いる。2 つの期ともかなり意欲が高く、予想外とも言える数値を示している。

Q 2 0



(Q 1 6) から (Q 2 0) までの連絡進学者と高校入学者の回答の差を見ると、若干どの設問も連絡進学者のほうが意欲的と思われる数値を示してはいるが、それほど大きな差ではない。5 0 期生と 5 1 期生では、各設問の回答で比較的意欲的な選択肢である (Q 1 6) の①、(Q 1 7) の②、(Q 1 9) の①、(Q 2 0) の①、消極的である (Q 1 6) の③、(Q 1 7) の②、(Q 1 9) の②、(Q 2 0) の②を夫々較べてみると、(Q 1 6) から順に意欲的な回答は (6 1%、6 6%)、(1 0. 1 6)、(2 1, 3 3)、(5 5, 7 1) で、消極的

な項目については(15%、7%)、(25, 19)、(21, 15)、(44, 29)となる。どの設問の回答も、51期生の回答の方が50期生の回答よりも、意欲的な項目では高く消極的な項目では低くなっている。このことは期全体としては、明らかに51期生の方が50期生よりも芸術科目に対して積極的な姿勢を持っていることを示していると言えるのではないだろうか。

本年の報告は、全ての設問について分析を試みた。まず(Q12)までの設問に於いては、第1希望を履修できない生徒が増えてきている点をどうするか、各科目の受入数に限りがあるので、かなりの人数を第2希望に振り分けざるを得ない。特に、第二希望に回った生徒の意欲に、若干はあるが低下がみられる点は見過ごしには出来ないであろう。まずは、各科目のカリキュラムや内容に対する情報不足による不満や意欲の低下は早急に是正すべきであろう。特に高校入学者は、中学時代の学習から本校の高校での学習内容の情報が得にくい。芸術科では1年時、最初の授業で各科目ごとにオリエンテーションを行い、教科内容を詳しく伝え、特に第2希望履修者は許せる範囲で、4月中であれば両科の了承を得て履修替えが出来るようにしているが、回答からはまだ不充分のようである。とはいえ、システムとしては人数調整の仕方については現状のままでやむを得ないと考えられているし、当面はそれで良いと考える。

(Q13)から(Q15)の授業内容に関する設問は、教科の特性やカリキュラム内容を考慮に入れれば、設問としては不充分で、より詳細な、内容の具体的な面にもふれるような設問も必要であろう。芸術科目に対する評価は予想以上に高かったというのが偽らざる感想である。更に細部の評価を探り、各教科のカリキュラムに反映すべきところは反映できればと考える。

(Q16)以下の授業形態に関する設問に於いても、

予想以上に意欲的な回答が多く、芸術教科に対する意識の高さ、必要性を感じていることがわかり意を強くした。全体的にみると、期による差、連絡進学者と高校入学者で多少の差は有るもの、総じて思っていたよりも意識が高かった。(Q16)の設問については、すでに終了した本校の教育課程再編を念頭に置いた設問であり、従ってこの調査研究の主眼でもあった。本校に於いては、芸術科目は大切にされ、単位数の少なさもあるが高1・高2の2単位ずつが選択必修として保証されてきた。たとえば、比較的最近では高校で家庭科が必修になった時点、隔週で土休になった時点でも、科目の担当時数の調整は芸術科目では行われなかつた。しかし完全週休2日制下での新教育課程に於いては、芸術科も共に時間数減に対応せざるを得ない状況になつた。そこで芸術科としては、新教育課程を決定していく段階で、この調査を生かして意見を出す際の参考として主張した。その考えは次の2点である。1点は、芸術科目を履修したい生徒の希望を実現すべく、時間枠を如何にして確保するかと言うことであった。出来れば高校3年生でも履修できる状況を作りたいと考えた。このことは、芸術科教師の内では、それまで余り強い発想としては無かつたもので、アンケート結果から触発されて主張したものである。その結果、最低単位の2単位は高校1年で選択必修とし、高2・高3では2単位ずつを他教科との選択で履修するという形で決定された。もう1点は、現在高1と高2で同一科目を履修することになっているが、2つの期とも4割前後の生徒が、同一科目だけでなく別の科目も履修したいという希望があるので、出来ればその希望を生かしたいと言うことである。これは、主として教科内で調整しながら校内調整すべき事柄なので、現在、方策を検討中である。しかし科目の特性から問題なく出来やすい科目と、学年連続でないと深まりがあまり期待できない科目とがあり、実施に至るまでに、芸術科各科目及び芸術科全体での十分な検討が必要である。